

# 子どもの生きがい



絵本を通してその「時」を考える

津 守 房 江

最近生きがいについて語られることが多いと聞くが、この中には、子どもの生きがいは含まれていないらしい。子どもの生きがい語れないのは、子どもには関係がないからではなく、「子どものように生き生きした」という表現が使われるように、子どもには、当然生きがいがあると考えられているからであろう。

反対に、おとな特に女性とか老人とかには、今日生きていることへの充実感や、自身自身の成長をさとする喜びが、見いだせないので、盛んに生きがいについて語られると思われる。

子どもには当然あると思われる生きがいの内容を考えてみると、成長するということと大きな関係がある。人が生活の中で積み重ねる、さまざまな経験や変化が内側にたくわえられ、充実した自己が次の段階へと上がっていく。そこに新しい世界が、前の段階の上でもあるにもかかわらず、新しく展開される。この時の充実感と、新しい段階へと飛翔するこころちよさは、年齢に関係なく成長するものの喜びである。この充実した成長の時を子どもの生きがいの「時」と考えて、絵本の中にこの「時」をたずねて見よう。

これは絵本の作者の眼が、子どもの成長をどのように見るかということ、この絵本を子どもがどう受けとるかという二重の興味がある。

## 絵本に見る成長の喜び

「ああ、わたしはいま、とつてもうれしいの。とびきりうれしいの。なぜってみんながわたしとあそんでくれるんですもの」

「わたしとあそんで」より マリー・ホールエッツぶん・え 福音館

「りんごです！ らいおんがついていなくても、ラチはつよかったのです。

ばんざい！ ばんざい！ ばんざい！……

だからラチは、きつとひこうしになれるでしょう」

「ラチとらいおん」より マレー・ペロニカぶん・え 福音館

「そのときふしぎなことがおこりました。プルッフのつばさはひろがり、プルッフは力いっぱいそれをばたいていました。足はもう地めんにはついていません。とんでいるのです！ すばらしいじゃありませんか！ プルッフはどんどんのぼっていきまます！ 草原をこえ、もうみずうみの上です。

ああ、すてきな気持ちでした」 「かものプルッフ」より

リダぶん ロジャンコフスキーえ 福音館

「ああ、そうか、ぼくはいままでそういうことをすこしもしらなかつた。ぼくは、ゆうべのうちいろいろなことをおぼえた」 「ねずみとおうさま」より コロマ神父ぶん

土方重己え 岩波書店

「それからやまへのぼっていきまました」

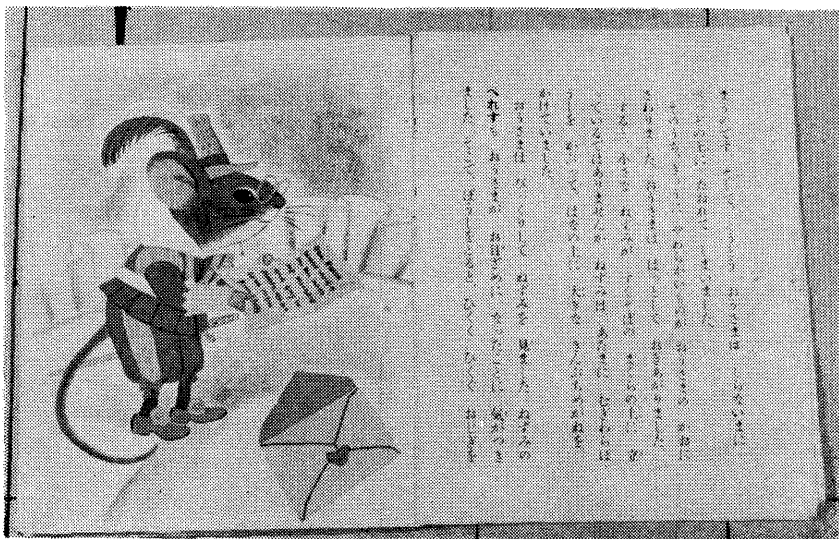
「三びきのやぎのがらがらどん」より マーシャ・ブラウンえ  
せたていじやく 福音館

以上五冊の絵本から成長の喜びの言葉を抜いてみた。絵本の絵は、言葉以上にもっと多く語っている。「わたしとあそんで」の「わたし」は、暖かい日ざしの中でうっとりとその時を喜ぶし、「ラチとらいおん」のラチは、象徴的なリンゴの輝きによって喜びを示す。「ねずみとおうさま」の幼いプビおうさまは考えぶかく祈り、「三びきのやぎのがらがらどん」は、黄色い太陽に輝く山と、垂直に立並ぶ木によって、成長をかちとった誇らかさを示している。

言葉の少ない絵本の中に、成長の瞬間の内面の喜びを示すのは、作者にとって困難なことであろう。すぐれたこれらの本は、それぞれの世界をえがき出し、この中で成長のみちすじと喜びとを示してくれる。

### 「ねずみとおうさま」にみる成長観

この本は、はじめに主人公の国と名まえを示し、次に、「このおうさまがおくらしいついたのではまだ六つときでした」と主人公の年齢が示されている。



六歳の子どもにとって、歯がはえかわるということとは、成長の時を具体的に知るひとつのできごとである。抜けた歯をどうやって抜くかということ、また抜けた歯をどのように扱うかは、子どもにとっては大きなことである。昔からいろいろなおまじないがあって、上の歯は下へ投げ、下の歯は上へ投げるといい歯が出る、などと教えられた記憶が私にもある。このようなおまじないがあることは、子どもの成長の一区切りと考えられ、大事にされたことだからだと思ふ。

この本では、抜けた歯を手紙といっしょに封筒に入れて、枕の下に入れて寝る。するとベレスねずみが来て、贈物をくれるという。このようないい伝えが、この国にはあるのだろうか。

手紙を書くということは、おとなにとっては日常的なことである。しかしよく考えてみると、自分の思いを書き表わしたものを折たたんで、封筒に入れる。自分の内面を書き表わすだけでなく、折りたたむことによって、他人には見せない空間を作り、封筒に入れることによって、内側の世界ができる。これを人にわたすことによって、その人と共通の思いをもつことができると考えられる。

プビおうさまは手紙を取りに来たベレスねずみに連れら

れて、暗いどぶを伝わって、その家に行く。この部分は、新しい経験の時であり、緊張の時である。「……みちはくらくて、べとべとぬるぬるしていました。けれどもおうさまとベレスは、どんどんはしっていきました」とある。暗い、べとべとぬるぬるという言葉から、成長の前の時期を考える。成長の時が輝かしい喜びの時であるのに比し、いろいろな経験を積み重ねていく時には、新しいことに緊張し、そのことに適応でききれない、混沌とした自分がある。

こうして、ベレスねずみといっしょにおうさまは、きょう歯の抜けた男の子のところへ行く。その子とおかあさんの部屋の貧しさに涙を流す。そしてこの子が、おかあさんと、「天にましますわれらの父よ……」という祈り（主の祈り）といってイエスキリストが弟子たちに教えた祈りで、今もキリスト教徒によって祈られているのをするのを聞く、王さまである自分と、貧しい男の子とが同じ祈りをし、同じ神を父と呼ぶことに驚く。「おうさまとベレスもしずかにかんがえこみながら出かけました」こうして翌朝ベッドの上で目を覚ましたプビおうさまは、貧しい男の子も、王様である自分も、神の前に兄弟だということを知る。

「ああ、そうか、ぼくはいままでそういうことをすこしもしらなかった。ぼくはゆうべのうちにいろいろなことをお

ぼえた」という。成長した自分自身を発見したのである。このことによって、この朝は、外からは「いつもとおなじように、あさのおいのりをはじめました」とあるように何の変わりはなくても、特別な時となったと思う。

### 「ねずみとおうさま」と子どもとのかかわり

この絵本を、一人の女の子Aが、その成長の中でどのようにかかわり、受けとったかを、記録で見してみよう。

この本は、Aの兄のために買ってあったので、Aがはじめて出会ったのがいつであるか分らない。三歳八カ月の時、「ベレスの歯」ですといって、絵を書いて四つに折りたたんだ画用紙を持ってきた。このころ、紙を折って、折った内側に小さな円などを書くことがよくあった。

紙を切ったり、ちぎったりということは、三歳二カ月ごろから出ていた。折るといふことはさきにもふれたように、ちぎったり切ったりとは違った意味をもっている。この一ヵ月程後には、原稿用紙に字らしきものをうめて、「お手紙書いた」といったり、便せんに絵を書いて折りたたんで、「お手紙」とわたしたりすることが盛んに出てくる。「ベレスの歯」の絵はそのつもりで書かれたことと思われる。

また「ベレスの歯」の絵の前後一週間位の間に、二十六

枚の絵が書かれたが、いずれも、ぐるぐる渦巻の中に目らしい玉が二つと、口らしい線が書かれたものである。この中の一枚として、「ベレスの歯」の絵を見ると、歯を中心とする人物画を書いたのだと考えられる。人にもわかる人物画を書いた時期と、「お手紙」を書きはじめた時期とが相前後しており、その中心として「ベレスの歯」の絵が書かれたことは、意味あることと思う。このころの記録に「AはP（妹）と対等に遊ぶ。Aは急にききわけがよくなる」として書かれている。

Aは六歳になって、自分の歯が抜けた時、ベレスねずみに手紙を書き、歯といっしょに封筒に入れた。このころ歯ぐきがはれたり、痛くて夜中に泣いたりということがたびたびあった。そしてやつと抜けた歯を手紙といっしょに入れた。その手紙には「どうか造花やなんかきれいなものをつくるひとにしてください」と書かれてあった。絵本には、プビおうさまがどんな願いを書いたかは書いていない。しかしこの本を読む子どもがそれぞれ何かを思って読んでいるのだろう。Aが何か物がほしいという願いではなくて、将来の願いを書き入れたのは興味深いことである。

暗いどぶを通るところからすぐに思いだされたのは次のような記録である。

「A（二歳八ヶ月）P（二歳五ヶ月）Aが障子に穴をあけているうちに、のぞくと中にPがいるのを見つけ、二人はキャッキョと笑いあう。次の日、また思い出して、同じ場所の障子を破ったのぞくが、妹がいないと母に「Pちゃん呼んできて」とたのむ」それまでAにとってPはいり回って自分をおびやかす存在だったが、この時、はじめて共通の喜びを体験した。この絵本に示されるころの、神の前には貧しい子ども地位の高い子ども全く同じである人間観は、一度に成立するものではない。それ以前に、人の存在を認識することから出発して（二歳八ヶ月の記録）人と共通の思いをもちたいと思うこと（三歳八ヶ月の記録）人としてどんな理想を持つかということ（六歳の記録）等が積み重ねられて、より高い人間観をもつに至る。これらのできごとは一つ一つ成長の区切りをなして、その時々子どもが成長感をもったように思う。

絵本を通して成長する子どもの生きがいの時を考えた。この助け手としてのベレスねずみの役割や、他の絵本にみる成長の助け手のあり方を考えるのも、保育者として楽しいことであろう。